

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201476		
法人名	株式会社 オールブルー		
事業所名	グループホーム 咲花多		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町1018番地2		
自己評価作成日	令和 1年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和2年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和元年8月より、株式会社オールブルーとして心機一転新たな気持ちで介護に取り組んでいます。佐世保の港が一望できる静かな高台に建っており、美しい風景や船の行き来を楽しむことができます。また、夏場には、花火大会の花火がホームテラスでとの染むことができ利用者、家族に好評となっています。

事業所の建物も一般家庭的な外観で瓦屋根、平屋づくりで利用者が外出から帰ってこられる時には、「ああ、家に帰ってきた」との声が聞かれています。

少人数のグループホームですが、家庭的な雰囲気大切に第二の我が家となることができるよう、スタッフ一同笑顔でお手伝いさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは今年8月より株式会社オールブルーが事業を承継し、職員は企業理念である「笑顔追及、」のもと、ホーム独自の理念である「さ-最高の笑顔で、か-快適安心の介護を行い、た-大切な命を守ります」を共有しながら介護実践に努めている。高台にある広々としたウッドデッキからは佐世保港を航行する旅客船や軍艦を一望できるほか、緑や紅葉、打上花火など季節の変化を楽しむことができる。また、共用空間に「咲花多メニュー」というコーヒー・お茶・ヤクルトなどの飲み物の日替わりメニューを掲示し、入居者が飲みたい物を選ぶようにすることで職員や入居者同士の会話へと繋げている。ホームでは運営推進会議の開催に合わせて消防訓練を実施し、地域住民や民生委員、市職員にも参加してもらうことで訓練状況の確認や入居者見守りへと繋げるほか、地域の子どもの避難所である「こども110番の家」としても協力している。明るく笑顔で入居者のペースに合わせてゆつくりと関わっている職員の姿が窺え、これからも入居者への支援に期待が持てる事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム 咲花多

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和元年8月から、株式会社オールブルーとして心機一転、「笑顔追及、」という法人理念をもとに、みんなの笑顔を作るために一丸となって取り組んでおります。施設内に理念を掲示して一人ひとりの意識にとめることができるようにしている。	ホームは今年8月より株式会社オールブルーが事業を承継し、企業理念である「笑顔追及、」のもとでこれまでのホーム理念を引き継ぎながら介護実践に取り組んでいる。理念の「、」には笑顔が永遠に続くようにとの代表者の想いが込められており、職員は入居者が日々楽しく過ごせるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に一度の運営推進会議の時には、地域の方が行事の様子などを話してくださいます。常日頃より、行事にもぜひ参加してくださいとの御声掛けを頂いており計画をたてている。	職員は町内会の総会に参加することもあり、できる範囲で地域に協力している。以前、公民館祭り開催時には入居者も参加したほか、お世話になった町内会役員へ季節毎に進物を贈るなど、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開かれる行事などの交流の際に、認知症に対する支援方法などを伝え、近所の方には、理解していただけるように話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常の様子や委員会活動、苦情や自己状況などを報告、意見交換・アドバイスを頂き、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議には町内会役員・民生委員・家族などが参加している。会議では行事報告やヒヤリハット・事故報告を行い、参加者との意見交換やアドバイスを得るなどしている。運営推進会議開催にあたり、全家族に向けて会議開催予定並びに参加を呼び掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員や、市役所に出向き情報を伝えたり、市から相談があった時には、その都度対応して協力体制を築くことができるように努めている。	日頃より地域包括支援センターや行政担当課職員と連携を図り、生活保護関連など入居者に必要な各種書類などについて助言を得ている。また、市の健康づくり課担当者より感染症について研修する機会を持つなど、協力関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に一度身体拘束適正化委員会を運営推進会議の時に開いている。また、1ヶ月に1度のミーティングの際にも勉強会を開いて身体拘束をしないケアについて学んでいる。玄関の施錠も利用者の安全を第一に考えながら取り組んでいる。	ホームでは運営推進会議開催時に会議参加者をメンバーとした身体拘束適正化委員会を開催している。転倒による骨折のリスクのある方について、家族へ説明を行い同意のもと四本柵及びセンサーを設置しており、本人の様子を見ながら解除に向けて検討している。職員は月に1度ミーティングにて身体拘束に関するマニュアルに沿った勉強会を行い知識を深めるとともに、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加して、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を作っている。会議などでも話し合いを行い職員同士の関係性も大事にし指摘し合える関係を築くことができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者はおられないが、その都度対応できるように勉強を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	8月から会社の運営が変わったこともあり、新たに契約や重要事項の説明などを行った。説明を重ねたり、不明なところなどの質問があった時には、迅速に対応できるようにした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、ケアマネが家族対応を行うようにしている。また、他のスタッフが家族から意見などを聞いた際には、すぐ確認、改善策を考え日常のケアや、運営に反映できるようにしている。	ホームでは今年8月より運営母体が変わったことによる家族の不安を取り除けるよう説明の機会を持ち、家族からの質問などにはその都度対応している。ホーム利用料について遠方の家族には振り込みにて対応しているが、近隣の家族には入居者への面会を兼ねてホームへの訪問を依頼している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを行いその際に意見や提案が出やすい雰囲気づくりに努めている。その際あがった提案や意見を必要であれば、代表に報告し改善にむけて動くようにしている。	月1回のミーティングの際には代表者も参加し意見交換を行っており、働きやすい職場環境となるよう職員からの提案や要望などを随時取り入れるよう努めている。入居者の様子を収めた写真をDVDにして家族へ渡したり折り紙の得意な職員による工作を支援したりするなど、職員意見を取り入れながら入居者が楽しく過ごせるよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの要件などの整備に努めている。また、スタッフが、やりがいを持って業務に当たることができるように環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や職責に応じて、施設内外への研修に参加し学べる機会を設けている。また、資格取得にむけても勤務体制などにも配慮して対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修や近隣施設合同での研修行事などを通して交流を図り、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人が不安な事や要望などに耳を傾けている。また、なるべく早く施設での生活に馴染んでいただくことができるように、スタッフ間での情報共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っていることを事前調査を行っている。要望などに出る限り答えることができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、医療機関、今後かかわる事になる関係者と事前に話し合いを行い、必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の依頼などを行っている。またご本人のやりがいなどを探して支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況などをお伝えしている。また、施設入所後家族との関わりが少なくなりがちになる場合が多くあるため、面会に来ていただく機会づくりを行うようにし、面会にこられた時には、利用者の良い面を伝えることができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのものを居室内に持ち込めることをご家族に伝えている。また、外出、外泊なども伝えることを伝えている。友人が面会にこられたり、利用者が友人と電話をしたりできるように支援している。	職員は入居後家族や友人との関わりが途切れないよう支援しており、家族や知人へ自由に電話をする方やハガキのやり取りをする方もいる。ホームへ家族や友人が訪問した際には入居者自身が所持しているお洒落な服で出迎える方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格などを把握しながら援助を行っている。会議の時などにも、利用者同士の関係などのことについてスタッフ内で共有を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の際には、今後についての話し合いの機会をもち、退去後も相談や経過についての支援する旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、家族と本人の意向の相違がある時には、本人の意見を伝えながら調整仲介に入り支援している。	ホームでは入居時における入居者本人の様々な情報や入居後の日頃の様子を観察記録に記載し、注意点や気になる事柄について適宜職員間で共有を図っている。また、訪問看護事業所との連携により入居者の健康面の情報についても共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境について日常生活の会話の中から情報収集に努めている。また、職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方については、定期的にあセスメントを実施して現状の把握に努めている。また毎朝バイタルチェック、週1回の医療連携している訪問看護ステーションとの連携にて心身状態の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族へ定期的に要望を聞くようにしている。また、スタッフ間でも現状に対して月1回のミーティングにて情報共有を図っている。	ホームでは定期的にあセスメントとモニタリングを行い、介護計画の見直しに繋げている。夜間時使用するセンサーやベッド柵の使用についても見守りを目的とする旨を家族へ説明し、介護計画にも謳い支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて情報共有している。また、日頃の気づきや工夫について特記としてあげ全スタッフと共有できる業務日誌、介護の個人記録づくりを行っている。またそれを活用しながら介護計画の見直しをおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と協力しながら、急なニーズにも対応できるような環境づくりを行っている。また、柔軟な支援ができるように社会資源の活用についての知識を深めることができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームでとれる野菜を収穫したり、日頃の暮らしの中で、楽しみを見つけることができるように支援している。利用者の中には、夜ベランダから見える遊覧船の行き来を楽しみにされている方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医がおられる場合は希望に添った対応ができるように支援をしている。現在は、施設が提携している主治医に全利用者依頼している。	現在、ホーム協力医による往診が月2回ある。受診については家族対応を基本としているが、家族の対応が難しい場合には職員が対応している。入居者の急な体調不良の場合には協力医の迅速な対応があることで、家族の安心感へと繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回は、訪問看護ステーションの看護師が状態観察にこられる。その際、排便状況や飲まれている薬の効能などについて詳しくいたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、安心して治療できるように医療関係者との連携を密にして対応している。入院期間中の面会や情報交換をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、重度化した場合や終末期のあり方について事前にアンケートをとるようにしている。また、実際主治医より終末期の話ができたときには、主治医・家族の話合いの際に同席させていただき終末期をチームで取り組むことができるように努めている	ホームでは入居時に重要事項の説明とともに重度化や終末期のあり方について家族へアンケートを行っている。実際に重度化した場合にはあらかじめ主治医を交え今後の方針について話し合っている。今年8月より運営母体の変更となったため、現時点では他の事業所への移設検討もあり得ることだった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医が土日祝日以外利用者の往診に来てくださる状況にあり、その都度急変などに対するの注意事項などの指導があっている。その都度対応に対するの指示があるため急変時に落ち着いた行動をとることができている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	運営推進会議の際に、災害などに対するの話をを行う機会を作っている。また年二回運営推進会議の中で消火訓練を行っており、地域の方も参加して下さっている。	ホームでは運営推進会議開催時に夜間帯を想定した避難訓練を実施し地域の方の参加があるほか、自主防災訓練時には防災関連のDVDを鑑賞する勉強会を実施している。災害時には二次被害を防ぐためにもホームへ留まることを想定しており、地域との協力を得ながら防災体制を整える意向にある。	近年、想定外の自然災害が各地で発生していることを踏まえ、ハザードマップの入手や有事の際の避難経路や避難場所をあらかじめ確認するとともに、防災マニュアルに沿った勉強会並びに様々な自然災害を想定した訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄等の介助では特にご本人の自尊心を尊重した介助に配慮を行っている。また、言葉遣いなどについては、その都度スタッフ間で気をつけるように注意しあっている。	職員は入居者への言葉遣いについて、親しい関係ができていても不快な言葉遣いとならぬよう留意している。今回、ホームでは新体制となったことを機にあらためて接遇マナーについて職員へ再周知する意向にある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活であることを踏まえたうえで、できる限りの希望に添った介護を行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に添ったペースを優先している。それによって職員側が臨機応変に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が着る服を選ばれたり、出来ない方にも「これとこれどちらが好きですか？」など尋ねるなどコミュニケーションをとりながら支援しています。また、理美容時には、自分でヘアについてコメントしながらカットされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事状況を見ながら食べやすい食事形態にて対応をさせていただいております。	職員は入居者を見守りながら一緒に食事を摂っている。食事のメニューは職員が交代で立案し、入居者が食べやすくなるようやわらかめのご飯やキザミ食にするなど、入居者の食事形態に配慮した食事の提供を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が少ないと思われる方には、好まれるジュースを提供したり一人ひとりの嗜好を尋ねるようにしている。栄養についても主治医より指導の下たんぱくしつを多くした食事を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛、また実施している。また定期的に歯科のケアを依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用しているも、排泄の声掛けを行いトイレでの排泄を援助している。また、排泄間隔を把握してオムツ使用を減らすことができるようにしている。	ホームでは排泄チェック表をもとに日中は本人のパターンに応じてトイレへの定期誘導を行っている。自分でトイレへ行くことができる方については職員の見守りにて対応している。また、居室でポータブルトイレを使用する方もおり、入居者の状態に合わせた排泄の支援に取り組んでいる。	ポータブルトイレを居室で使用している方に関し、ポータブルトイレがそばにあることで安心感を持ったりその方の動線になっていたりすることが考えられるため、本人の使い勝手を考慮した上で未使用時には必要に応じて目隠しなどを検討することが望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌を多く含んだ食材を使ったりと配慮をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴時間などを配慮した声掛けをおこなっている。おおまかな時間や曜日などの指定はしているが、体調や気分に応じて変更可能な日程にしている。	ホームでは浴槽に入りやすくなるよう手すりを設置しており、今のところ入浴を拒否する入居者はいない。職員は長湯をする入居者に対し、上手な声掛けを行うとともに体調不良にならないよう配慮している。入浴後には肌の状態によって保湿剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事の後にリビングですごされたり、居室でゆっくりすごされたり様々だが、本人のペースで生活ができるように援助している。また、室内の温度調整や灯りなど定期的に巡回して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のセット時には、二人体制で確認作業を行っている。また処方変更などがあったときには、記事に薬の目的、副作用用法などを記入している。またスタッフ間での申し送りなど共有することができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、趣味を施設でも行えるように支援している。ベランダから見える船の行き来を楽しみにしている利用者には、船の時間を伝えて夜に見るためにベランダにでられるように支援をしたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由にベランダにてたり施設周囲を散歩されたりしている。また、希望されるドライブなどに関しては、ご家族と相談したり安全に外出できるように計画を行ったりしている。	職員はホーム周辺での散歩やおやつを買いに出掛けるなど、日常的に入居者の外出支援に取り組んでいる。床板を張り替えたウッドデッキからは船の航行を一望できるなど、季節の変化を楽しむことができるほか、共用空間に「咲花多メニュー」という飲み物の日替わりメニューを掲示し、入居者はベランダや食堂でお茶を楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されるかたには、少額のお金を所持されている方もおられる。その際トラブル防止のためにも、お金に関する内容のことは、二人体制で確認するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話や手紙などのやりとり可能である。切手を貼って投函したり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、カーテンを開け外の風景を楽しんでいただいている。また、季節感のでのおりがみや花を飾り居心地よく生活できる空間づくりをおこなっている。	ホームの共用空間には入居者の写真や季節毎の装飾を施し、職員の毎朝の清掃によってホーム内は清潔に保たれている。現在、加湿器の設置はなく、その代わりに湿らせたタオルを用意し湿度調整を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、トランプをしたりと気のあった利用者同士で過ごしておられる。ソファで足をのばして過ごしたりと個々のペースですぐしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具などの持ち込みはご家族と本人で相談しておられる。	居室にはベッドと収納が備え付けてあり、入居者の状態に応じてポータブルトイレを準備している。家族の写真や配偶者の遺影のほかにも使い慣れた物を持ち込むなど、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮していることが窺える。居室は清掃が行き届いており、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子使用や杖使用など様々だがご本人の意欲に応じた介護を心がけている。自分の出来られることを自分でしたいと思われるような意欲を促す声掛けの工夫をしている。またその際ご本人のできることの押し付けにならないように配慮している。		